妊娠高血圧症候群

妊娠高血圧症候群とは

妊娠中や産褥期に
高血圧や尿蛋白を生じる疾患です
　かつて「妊娠中毒症」と呼ばれていた合併症で、
　およそ 20 人に 1 人の妊婦におきます

どんな人に多いの？

・以前の妊娠で妊娠高血圧症候群になった方
・慢性高血圧、糖尿病、自己免疫疾患・腎疾患をお持ちの方
・肥満
・高齢妊娠
・妊娠初期から血圧が高めの方

・
・

当院では、リスクの高い方は、流早産予防外来や合併症外来での管理を行いより厳重に対応しています。

妊娠高血圧症候群が重症化すると・・・

・常位胎盤早期剥離
・胎児発育不全
・胎児機能不全
・子癇（けいれん）発作
・脳出血
・腎機能障害
・HELLP 症候群(溶血、肝機能障害、血小板減少)
などをおこすことがあり注意が必要です

妊娠高血圧症候群の治療

1．入院経過観察

母児の健康状態に異常が起きないかをチェックします

2．薬物治療

血圧を下げる薬やけいれんを防ぐ薬を使うことがあります

3．分娩

根本的な治療は妊娠を終えることしかありません。母児の安全のために早産での分娩が必要となることがあります

どうすればいいの？

原因はよく分かっておらず、確立された予防法はありません。妊婦健診をきちんと受診し、早期発見することが大切です。
血圧が高めの方は自宅血圧測定をお願いすることがあります。

地方独立行政法人　大阪府立病院機構
大阪母子医療センター
＜産科＞
〒594-1101　大阪府和泉市室堂町 840
患者支援センター　TEL　0725-56-1220
FAX　0725-56-5605

2022.7.改訂